

〔曲名〕 Sorrisi e Lacrime

微笑と涙

〔曲種〕

〔作曲者〕 G. Giampietro

ジョヴァンニ・ジャンピエトロ

〔編曲者〕

作者の経歴については全く不明であるが、

フィレンツェのプラッティ或はミラノのリコルディから若干のピアノ伴奏マンドリン独奏曲を出版しているので、

今世紀初期にイタリアで活躍したマンドリン関係の作曲家であったことが解る。

作品にはワルツ「無我」、スペイン風舞曲、東洋風舞曲、ト長調ガボッタ、牧人の唄、黄金の夢、等があり、

特にリコルディから出版した演奏会用第二マヅルカはマンドリンを含む二十九種類の楽器編成形態で書かれ(トセリのセレナータ等と同様)

相当もて囃されたことを示している。

それによれば第二マヅルカをスイス、チューリッヒのマンドリンギタークラブの弟子たちに贈る」とあり、

チューリッヒに在住した作者或はマンドリニストであったかも知れない。

本曲微笑(ほほえみ)と涙は唯一つマウリ(フィレンツェ)で出版したマンドリン合奏曲であるが曲想極めて美しい。

主旋律は終始第一マンドリンにあり、ギター伴奏のマンドラ独奏曲(他のパートを省略して)としても恰好のものである。

合奏の場合第二マンドラはマンドロンチェロに其捲置換えてあるので、

いずれかを省略すればよいがマンドロンチェロは音質音量の上からラウンドバックのものを用いたい。
悲しみの中に心を持ち直し希望を求めるが慰むべき術のない悲しみは唯涙となるのみと云った様子が巧
まずに表現されている。

本曲は筆者がマンドリンを初めて間もなく父を亡い、

唯一の精神的後援者であった故伊藤健氏の愛奏のもので百曲選の中には初めから予定していたものであ
る。

1970年2月10日発行

イタリアマンドリン百曲選第4集より